

千葉市動物公園で屠体給餌の実施費用をクラウドファンディングで募ります！
～ライオンのQOLの推進と有害駆除されたイノシシ肉の有効活用～

千葉市動物公園では、飼育動物のために様々な環境エンリッチメント（※1）の取り組みを進めています。

このたび、ライオンやハイエナのQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を目的に、毛皮や骨と一緒にとなった肉の塊を食べさせる屠体給餌を実施するため、千葉県内で有害駆除されたイノシシの屠体肉の処理・調達や啓発事業の経費をクラウドファンディングを活用して募集を開始しますので、お知らせします。

1 目的

屠体給餌は、野生で狩りをする感覚を呼び覚まし、通常の飼料の採食時には見られない行動等が発現するなど、飼育されている動物のストレス軽減につながるといわれており、飼育動物のQOLの向上の実現が期待できます。

また、屠体給餌を通して動物の生態への理解と、増加する害獣問題に対する理解を深めることに貢献することを意図しています。

屠体給餌とは

肉食動物に対し動物を毛皮や骨などがついたままの状態でご飯をあげることを指します。

屠体給餌を行うことで、栄養面だけではなく「皮を噛み切る」「骨をかみ砕く」刺激が動物本来の採食に対する心理的欲求を満たす効果が期待されています。欧米の動物園では肉食動物へのQOLとして広く実施されており、国内の動物園においてもこの活動がひろがりつつあります。



喉を鳴らしながら肉を舐めまわす行動
(普段の正肉給餌では見られない行動)

野生イノシシの被害と駆除の現状

近年国内各地でイノシシが増え農業被害が増加しており、千葉県内のイノシシによる農作物被害額は年間2億円前後であり、年間2万頭超が捕獲されています。これらの多くが埋設または一般廃棄物として処理されており、処理費用の増加についても課題となっています

2 本事業のパートナー企業

AL SOK千葉株式会社（千葉市花見川区幕張本郷1丁目3番33号）

代表取締役社長 長嶋 義春

業務内容：各種警備事業・有害鳥獣捕獲と捕獲個体のジビエ加工業

動物へのイノシシ屠体肉の給餌は生食で実施されるために、E型肝炎などのウィルスの不活化処理が必要となります。

今回、屠体給餌事業を実施するにあたり、動物園向け屠体肉の確保と共に、ウィルス不活化の検証と工程構築などの協力を受けています。

3 対象動物

ライオン、ハイエナ

4 クラウドファンディングについて

(1) 目標金額

100万円（予定）

(2) 支援金の主な用途

- ・イノシシ屠体肉のウィルス不活化処理経費
- ・環境エンリッチメント、有害鳥獣問題の啓発・教育イベント等開催経費
- ・屠体給餌の科学的効果検証研究経費

(3) 支援金の募集方法

クラウドファンディングサイトにてプロジェクトページを作成し、支援金を募ります。

(4) スケジュール

プロジェクトページ公開日： 令和3年6月 1日（火）

支援金の募集開始日： 令和3年7月 1日（木）

支援金の募集終了日（予定）： 令和3年8月15日（日）

※以後、当該プロジェクトページやホームページ、SNSを通じてプロジェクトの進捗やリターンの詳細等をお知らせします。

(5) 返礼品（リターン）

支援金額に応じた特別なリターンを予定しています。

(6) その他

本クラウドファンディングは、国家戦略特区推進課がシェアリングエコノミー推進事業（※2）の一環として支援し、クラウドファンディングの普及促進を図る目的で実施します。

【参考】

※1 環境エンリッチメント (environmental enrichment)

動物の福祉と健康のために、飼育環境に変化を加え、飼育動物に刺激や選択の余地を与えることにより、動物の望ましい行動を引き出すことをいいます。

千葉市動物公園では、環境エンリッチメントの実践として、動物毎に工夫したパズルフィーダー（餌の取り出しに時間がかかったり動物自身による工夫を要する給餌器）を利用している他、「チーターラン」も獲物を追いかけるチーターの狩猟衝動を刺激するとともに、餌を得るための適切な運動を促す目的があります。



餌の取り出しに知恵や時間を必要とするパズルフィーダー



チーターの狩猟本能を刺激するチーターラン

※2 シェアリングエコノミー推進事業

千葉市においてシェアリングエコノミーの活用による地域課題解決が図られるよう、多様なシェアリングエコノミーサービスの普及促進や活用支援を実施するものです。令和3年度はクラウドファンディングとフードシェアリングサービスをテーマに事業を実施し、クラウドファンディングに関しては市内でのクラウドファンディング活用施策の支援も図ります(受託事業者:幕張PLAY株式会社)。